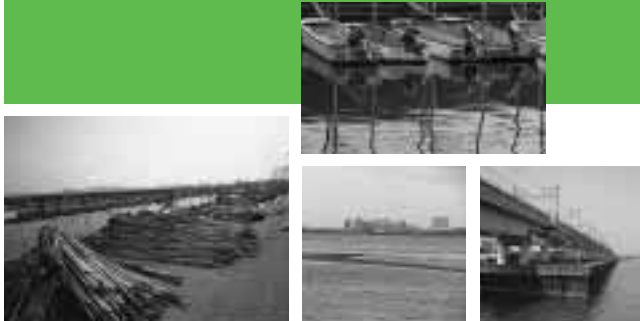


市民参加のまちづくりネットワーク



市川の海もかつては行徳の干潟で、シャコやカレイ、アサリ、ハマグリなどが豊富に採れ、干潮時には、三千メートルの砂干潟が現れるほどでした。大正の初めころには海辺に多くの塩田があったといわれています。今ではそうした海辺らしい風景も見られなくなり、漁業活動など人の暮らしとともに維持されてきた自然環境は徐々に悪化し、周辺の埋立に伴う地形の変化や埋め立て計画の進めと縮小に伴い、青潮の発生や有機物のたまり、護岸の腐食など、早急に解決すべき多くの課題が生じています。市では、この状況をふまへ、まず現状を正しく認識し、保全すべきところは保全し、修復すべきところは修復することに努

かつての豊かな海を再生し、市民の海を取り戻すために

特集 市民とともに考える 市川の海と行徳臨海部のまちづくり

豊かな海を再生し 市民の海を取り戻すために



かつて豊かな水辺のまちと呼ばれた行徳地域。人口増加や都市化が進むにつれ、まちや海の環境は大きく変化してきました。都市環境の改善を図るための用地確保と、自然と人間とが共生できるまちづくりを目指そうと、千葉県による埋立計画がつけられました。計画への見直しを求める声の高まりの中、長期にわたって事業化が見送られ、その結果、現在この地域には埋立計画に関連する様々な課題が生じています。市では、「豊かな海を再生し市民の海を取り戻す」という基本姿勢のもと、海と行徳臨海部全体の問題として捉え、その解決に向けて取り組んでいます。今後、海辺のまちづくりを市民の皆さんとともに考えながら進め、国や県に対しても地元の見解が計画に反映されるよう働きかけていきたいと考えています。



市川の海と海辺のまちづくり 皆さんからの提案を募集します!

あなたの考える市川の海と行徳臨海部のまちづくりを、文章や絵、模型などの形にして提案して下さい。個人に限らず、団体、グループ、法人、企業、学校単位での応募も受け付けています。

寄せられた提案は、今後の市の計画づくりに反映させてまいります。また「広報いちはかわ」や市が開催する展示会などでも紹介していきます。なお、千葉県の堂本知事は、現行の埋立計画は一旦白紙に戻し、自然の保全と里海の再生を目指す新たな計画を、地元住民をはじめ幅広く意見を聞きながらつくりあげていくことを表明していることから、知事に対しても皆さんの提案を伝えてまいります。

締め切り 6月15日(金)必着
提出先 行徳臨海部対策担当
TEL.047-334-1111(代)
内線5193または5194

行徳臨海部・海辺のまちづくりの窓口です。気軽にお立ち寄りください。

フォーラムアイ 創刊にあたって
今月から第3日曜日に、広報いちはかわ日曜版「フォーラムアイ」を発行することになりました。「フォーラムアイ」は、市民の皆様が地域を知り、考え、参加する広場(フォーラム)です。市の重要課題や重点事業などさまざまな問題について、提案型、双方向型の紙面を展開していきます。

かつての豊かな海を再生し、親しめる市民の海を取り戻そうという方向で、課題の解決に取り組んでいきます。

環境省と千葉県に主体的な取り組みと計画の促進を要望

千葉県による市川二期埋立計画(見直し案)は、下水道終末処理場、街づくり支援用地、広域幹線道路用地、公園緑地と人

工海浜を整備しようとするものですが、埋立事業に合わせた海の再生と都市課題の解決を図るため、今年の二月、環境大臣に対して、埋立計画に対するこれまでの受け身の姿勢でなく、「二番瀬と行徳臨海部の自然環境の保全と再生」について主体的に取り組むことを求める要望書を提出。これに対し、環境省も前向きな取り組みを約束しました。さらに、農知事に対しては

埋立計画の促進と関連する課題の解決を強く求めた要望書を提出しています。

市川市における課題解決への取り組み

市では課題の総合的な解決方法を検討するため、昨年十月、学識者、地元自治会、市民団体、漁業協同組合、地元企業・関係団体の代表で構成する「行徳臨

海部まちづくり懇談会」を設置しました。

懇談会を公開開催されておられ、それぞれの団体から様々なまちづくりの提案が出され、活発な意見交換が行われています。

また、この四月からは市役所内部に行徳臨海部の課題を専門的に担当する「行徳臨海部対策担当」や関係部局による「行徳臨海部対策本部」を新たに設置し、早期の課題解決に向けて積極的に取り組んでいます。

行徳近郊緑地特別保全地区

内陸性湿地の再整備

過去の埋立事業の際、野鳥の飛来地を保護するために残された83haの区域は、県の鳥獣保護区と宮内庁新浜鴨場から構成され、昭和45年に近郊緑地特別保全地区として指定されています。市街地に残された野鳥にとっても周辺住民にとっても貴重な空間ですが、指定当時と比べて飛来する野鳥が減少するなど、その環境は決して十分なものではありません。海域の干潟との連携を図りながら、多様な生物が息できる内陸性湿地の再整備と市民が自然に親しめる空間の整備が求められています。現在、市民による湿地環境の復元作業が進んでいるほか、市では観察路の整備を進めています。また、ラムサール条約登録湿地の指定を要望しています。



市川塩浜駅周辺

海辺の街に再整備

駅周辺は「工業専用地域」に指定されているため、工場や倉庫群が広がっています。これまでも、駅前にふさわしい土地利用が検討されてきましたが、隣接する埋立計画がはっきりしないため、再整備をなかなか進められずにいます。駅前という立地条件をいかした土地利用と市川の海の玄関口にふさわしい再整備が求められているところです。市では、地元企業の方々と協力して街づくり構想の策定に取り組んでいます。



下水道第一終末処理場計画地

適正な土地利用の誘導

昭和48年に県が下水道終末処理場用地として都市計画決定した区域ですが、地権者の反対により県は建設を断念。二期埋立計画地に移すと言ってきました。しかし、その後約30年間にわたり土地利用の制限が続いているため、地権者は適切な土地利用を図ることができていません。現在、大量の残土が無秩序にたい積され、砂ぼこりや排水の不良などで、付近の住民生活に悪影響を与えています。市では、地権者アンケートの実施や周辺住民の意見を参考にして、適正な土地利用の構想づくりに取り組んでいます。



暫定的な直立護岸

海とふれあえる水辺へ

市川市前面の海はすべて直立護岸で囲まれ、その背後には工場や倉庫が立地しているため、市民が自由に海とふれあえる空間がありません。またこの直立護岸は、二期埋め立てを前提とした暫定的な護岸のため、老朽化による護岸の陥没が発生し、崩壊の危険が増大しています。豊かな東京湾の自然と接することができる水際線への整備が求められています。市では、護岸の改修方法を検討するとともに、県に対して、親水性のある護岸の整備を要望しています。



不法投棄・不法係留

適正利用のルールづくり

猫実川河口付近の護岸周辺は、人の目が行き届かないため、プレジャーボートの不法係留が多く見られ、中には沈没船が放置されています。また、護岸周辺には、廃車やゴミの不法投棄が続いています。平成11年からは、「市川三番瀬クリーンアップ大作戦」によって市民参加による清掃作業が進められました。海を再生する取り組みとあわせて、利用者マナーの向上など、海を適正に利用するためのルールづくりが必要になっていきます。



海域

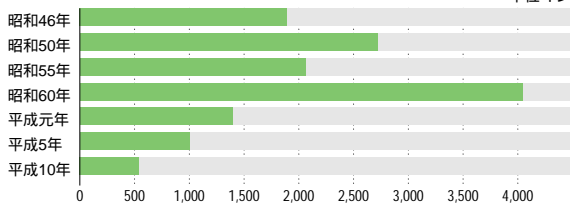
漁場環境の修復

かつて市川の海辺に広がっていた干潟は、これまでの埋立や昭和40年代の地盤沈下でその面積が大幅に減ってしまいました。また、隣接する浦安の埋立によって地形が大幅に変化し、潮の流れが遮られたことで漁場環境が悪化、アサリの漁獲量は減少し、海苔養殖漁場が年々沖の方へ移動し続けています。猫実川河口付近にたい積した有機物のヘドロ化や、埋め立ての際に海底の砂が採取されてきたくぼ地などが発生源と見られる青潮により、漁場に大きな被害を与えています。

漁業活動と一体となって維持されてきた三番瀬の自然環境を保全するためには、漁場環境の修復が必要です。



アサリ漁獲量の推移



行徳臨海部の 主な課題と 取り組みの方向

埋立計画地、市川塩浜駅周辺部、行徳内陸部を一体とした「自然と共生する街づくり」を目指すなか、市川二期埋立計画の遅れにともなう行徳臨海部の課題は山積しています。豊かな漁場であった海は、地盤沈下や周辺の埋立によって不自然な地形となり、潮の流れが悪くなって、自然環境のパラダイスが崩れてしまっています。

**若い人のために、
稼ぎもよかった
埋め立て前の漁場を
取り戻したいですね。**

落合 一郎さん

おちあいいちろう

市川市行徳漁業協同組合専務理事

漁場は管理をやっているからこそ、よい環境が保てるというのが、わいわい漁業者としての誇りです。潮の流れが遅られ、青潮の問題で悪化してきた今の海は、貝の種類も量も減ってしまい、たいへんつらい。

埋め立て前は大卒でもここで漁業をしたいという人がいて、勢いがありました。もとの海に戻すことは無理でも、若い人に、潮が流れて干出す漁場を残していきたい。陸（おか）で働くのはいろいろなかで縛られるけど、海は、自分が働こうと思えば自由に働けますから。



20歳のころから38年間、行徳の海で漁を営んでいる。おもにアサリ漁。漁場の3分の2は消滅してしまったという。

**人間が
存分に楽しめる
気持ちのいい空間に
したいですね。**

丹藤 翠さん

たんどうみどり

行徳まちづくりの会

一言で言うと、気持ちのいい海づくりがしたいですね。樹々と、水の流れと、いろんな生き物がバランスよく生き、潮や土の香りのするホッとできる空間。そして、その気持ちよさを私たち人間が存分に楽しめる、配慮されたそなえ。

東京から20分で来られるこのエリアに、アンチ開発で、自然と人間が共生するいきいきした場ができれば、それこそ世界初の快挙ですよ。



行徳在住。歴史ある町並み、文化、水辺の風景を結び、人々が楽しめる道でつなぐ「行徳の未来マスタープラン」を提案している。

**海と人と街との
かかわりで考えないと
自然は守られない。**

安達 宏之さん

あだちひろゆき

三番瀬フォーラム市川事務局

地元のお年寄りに小さいころの話や聞けなかった話や勉強になる話、ヒアリングを始めました。そうすると今の環境もすでに本来あった環境ではないけれど、お台場や浦安と違って、ここには昔ながらの自然と暮らし方が、傷つきながらも残っていることに気づきました。

干潟も人とかかわりで考えていくとおもしろいものができる。残った干潟と浅瀬を大切にしながら、海と人、海と街との接点がもう一度できるように海辺のありかたを考えたいですね。



行徳在住。三番瀬フォーラムでは、地域で長年生活してきた方々からの聞き取り調査をヒントに、「三番瀬・海辺のふるさと再生計画」を作成、提案している。

**このすばらしい自然の
価値を高めて
もっと鳥の居場所を。**

東良 一さん

あずまりゆういち

NPO法人 行徳野鳥観察会友の会

三番瀬には春秋の年3回、鳥の生息調査を20年近く続けています。ここではシギが1000羽ぐらい数えられますが、これだけ集まって観察されることはめずらしい。でも、もっと多くの種類、もっと多くの数の、鳥の居場所になれたいと思っています。

鳥がいるということは、自然が豊かということです。私たちは行徳鳥獣保護区と三番瀬の自然を有機的に連動させながら、このすばらしい自然の価値を高める活動を続けたいと思います。



行徳野鳥観察会友の会では、水鳥が生活するための湿地の復元をはじめとして、自然の機能を高めるさまざまな試みを続けている。

**行政まかせではなく
市民団体も企業も
みんなで意見を
出し合える場を。**

杉浦 康司さん

すぎうらこうじ

(社)市川青年会議所 副理事長

ここは、まわりが埋め立てられて開発されていく中、残ってしまっただけのことです。でも残ってしまったことを、逆に強みにして、アイデンティティがあって、ひとが集まる、誇れる街にしたいですね。

そのためには、みんなが好き勝手な絵を描いていただけではどうしようもない。市民も企業もみんながいっしょの席で、ひとりひとりが思っていることを出し合って、心の距離を縮めていくことが大切だと思います。



青年会議所では、これからのまちづくりは市民の力が大切と、グリーンアップ大作戦の事務局となり市民を巻き込んだ活動をしている。

みなさまの

「行徳臨海部まちづくり懇談会」委員の方々に三番瀬を含む行徳周辺のまちづくりへの思いを伺いました。

V O I C E

**開発のしわ寄せが
ぜんぶ三番瀬に
きてしまったんですよ。**

宮崎 太三郎さん

みやざきたさぶろう

南行徳漁業協同組合専務理事

よそから来た人は行徳の海はいい海だから、今のまま手をつけずに残せというけれど、漁のできない海どころがすばらしい海だと言いたい。東京湾は掘って埋め、掘って埋め、掘り散らかされてしまったんです。浦安の埋め立てで、風の壁、波の壁ができてしまって、しわ寄せが全部三番瀬に来てしまった。

世の中、金が動かないと不況になるように、海も潮が動かないと不漁になります。



現在77歳。18歳のころから海に出ている。昔はのりの養殖のために立てた竹が、潮の流れでポンポン揺れていたという。

**人をなんとか
引き寄せられる
街にしたい**

米山 精次さん

よなやませいじ

市川市塩浜再開発協議会 会長

塩浜駅周辺には、第一期の埋め立てで進出してきた鉄鋼業や倉庫業を中心とする企業が集まっていますが、早く土地を売って逃げ出したいという意見が少なくありません。市川港にもっと大きな船が入れるようになれば有効に使えるし、終末処理場も、第二湾岸道路もどうしても必要だと思っております。

何よりも用途地域が「工業専用地域」のみまではどうしようもない。土地を売るにも売れないし、人も集めることもできないですよ。



市川商工会議所会頭。市川市塩浜再開発協議会には塩浜2丁目を中心としておよそ30社が加盟している。

**何年も放置された
個々の問題を直すことが
先決です。**

松沢 文治さん

まつざわぶんぢ

行徳地区自治会連合会 会長

わいわいすでに環境を破壊した上に住んでいるわけで、開発されることで経済も発展してきました。住んでいる人もしょうがないと思ってきたはず。今になって自然を壊すなどと言っても、それはおかしいような気がします。

まずはそれぞれの地域が抱えている問題を解決すること、この辺なら行徳富士のいなない士をもとに戻すことが先決です。まちづくりはそれから問題じゃないでしょうか。



行徳地区に27ある自治会の連合会会長。市川市に生まれ、昭和51年から行徳に住む。昔はよく海で遊んだという。

**海の再生は
今ある干潟と浅瀬の
保護を前提に。**

佐野 郷美さん

さのさとみ

市川緑の市民フォーラム 事務局長

市川には海もあり、川もあり、森もある。それらを守って環境重視の街ができれば、みんなが住みたいと思うだろうし、そんな街を次の世代に引き継いでいきたい。

市川の海は、昔の東京湾の姿を残す最後の浅瀬と干潟の海です。もうこれ以上埋め立てないで東京湾を回復することが大切。ただし、人がつくった深みと直立護岸は直しましょう。人が壊した海を再生させるのは大変なこと。ここに研究者が集まり、子どもたちが海や干潟の大切さを学びにきてほしいですね。



市川緑の市民フォーラムは、市川の自然、歴史、文化を大切にしたいまちづくりに取り組む。市川市が抱えるさまざまな問題について市民の立場で提案をしている。

**水と親しめる海、
遊べる海を
取り戻すことが
第一ですね。**

歌代 素克さん

うたしろもとかつ

南行徳地区自治会連合会 会長

昔は海でよく遊びました。アナゴやハゼを獲るためのボーボーと呼ばれる竹筒を、かってに引き上げて、漁師さんに怒られたり...

手を加えて環境を壊したんだから、元に戻すにも、やはり手を加えないといけない。少しでも昔の海に近づけて、水と親しめる海、遊べる海として取り戻して、次世代に残したいですね。子どもたちにとっても、海で漁師さんの働いている姿を見られるだけでもすばらしいことだと思っております。



南行徳地区に39ある自治会の連合会会長。南行徳には昔から住んでいる人も、新しい人もいますが、みんな包容力が大きいと言っています。

市川野鳥の楽園 江戸川放水路

行き先、 決めた

遠くに出かけるのもいいけれど、
いちかわの街にも
素敵な場所がいっぱい!

Sunday TOWN GUIDE

観察舎には望遠鏡44台を常設。野鳥図鑑も借りられる。



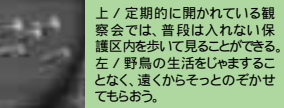
全国的にも貴重な、
水辺の空間。

市川野鳥の楽園

行徳・浦安の水辺は、かつて「新浜」と呼ばれ、水鳥の楽園として世界に知られたところ。「市川野鳥の楽園」は、その豊かな水辺環境や水鳥を守るために造られた。約83ヘクタール全域が行徳近郊緑地特別保全地区、そのうちの一部が鳥獣保護区に指定されている。

行徳野鳥観察舎

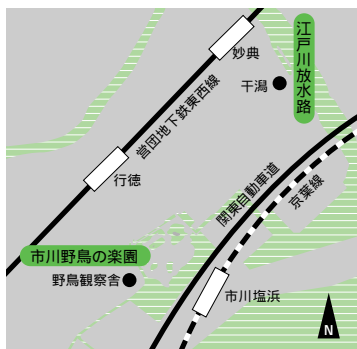
福栄4-22-11 TEL.397-9046
開館 / 午前9時～午後4時30分
休館日 / 毎週月曜日(祝休日の場合はその翌日)、
毎月末の金曜日、年末年始
交通 / 地下鉄東西線行徳駅から徒歩25分



上 / 定期的に開かれています観察会では、普段は入れない保護区内を歩いて見ることが出来る。左 / 野鳥の生活をじますることなく、遠くからそっとのぞかせてもらおう。



観察舎の利用は無料。展示室や図書室もある。



東京湾に残る数少ない
干潟のひとつ。

江戸川放水路

江戸川放水路は洪水を防ぐために造られた人工の水路。普段は可動堰が閉められ、川の水が流れ込まないため、放水路は川というより海の入江に近い環境になっている。特に干潟は、貝類やカニ、エビなど、海の生物の宝庫だ。

交通 / 電車やバスをご利用ください。地下鉄東西線妙典駅から徒歩15分。



上 / 干潟で見つけたチチュウカイミドリガニ。
下 / 土手にも自然がいっぱい。昆虫や浜辺特有の植物を見つけよう。
左 / トビハセが生息しやすいように整備された、トビハセ護岸。

水辺の自然を感じよう!

ほかほか日差しが気持ちよい5月の休日、思わず外に出かけたくありませんか? そんな日は、市川水辺エリアに足を運んでみませんか?
おすすめスポットのひとつ、行徳・南行徳地区にある「市川野鳥の楽園」。ここは、湿地帯や干潟が54ヘクタールにもわたって広がる水辺の空間。野鳥たちの生活を守るために、湿地内への立ち入りは制限されていますが、敷地の一角にある行徳野鳥観察舎から、水辺の様子を一望できます。望遠鏡も常設されています。岸辺で休むカモメの群れや、上空を優雅に飛び回るサギ、干潟でうごめく無数のカニまで、手に取るような近さで観察できるのは、ちょっと感動的ですよ。

「市川野鳥の楽園」から、地下鉄東西線行徳駅へ出て一駅、妙典へ。この辺りは学校もマンションもできたばかりで、水辺の新しい街という感じ。そして、東へ進むと、江戸川放水路。放水路沿いの土手では、昼寝をする人、犬とたわむれる人、楽器の練習をする人と、それぞれの時間を過ごしています。放水路は5月を過ぎると干潟遊びにちょうどよい季節で、家族連れでにぎわっています。そういえば、干潟遊びなんて、ずいぶんしてないなあ、なんていう人は、ぜひ長靴を持って出かけてみてください。干潟の生物を観察できる場所は、東京湾でも今はそうそうないのです。

干潟遊びは、3月から9月の大潮の日が狙い目。



フォーラムアイでは皆様からのご意見、ご提案を募集します。

フォーラムアイ5月号では、「市川と海と行徳臨海部のまちづくり」を取り上げました。今後、6月号では21世紀のまちづくりの指針となる「市の総合計画」、7月号では解決の糸口がなかなか見えない「放置自転車問題」を取り上げる予定です。皆様からのご意見、ご提案を募集します。住所、氏名、電話番号をご記入のうえ、はがき、FAX、Eメールでお寄せください。

〒272-8501 市川市役所 企画政策部広報課
FAX / 047-336-2300
Eメール / mailbox@city.ichikawa.chiba.jp

読者の 広場

昨年7月に「広報いちかわ」で、「これからの市川の海」について市民の皆さんの提案を募集しました。寄せられた多くの意見のなかから今回は3人の提案を紹介いたします。

生き物が暮らす 緑豊かな公園を

子供から大人まで身近に安全に海に親しめ、大人になってからも市川の海が素敵な思い出になるように、美しい砂浜とピクトリーなどに水辺の生き物が暮らす緑豊かな公園を造ってほしい。

環境学習の施設の 設置を

三番瀬を干潟と浅瀬の生態系を学習する国民的な環境学習のフィールドとして捉え、国にも理解を求めて「国営干潟浅瀬エコロジーパーク」とします。埋め立て地の用途地域を変更して工場・倉庫を徐々に減らし、直立護岸を取り除いてかつての東京湾の水辺を再生させながら環境学習施設を造ってほしい。

調査機関を設け 市民参加で検討

今までの科学的なデータや検討経過などを情報公開し、市民が参加して、埋め立ての必要性・機能・経済性を議論できる公聴会や公開シンポジウムを数多く開催。自然環境を継続的に調査・研究する機関を設け、「自然環境の保全や復元」と「臨海部の海を生かした街づくり」について市民参加で慎重に検討すべきです。